

# 地球科学輻合ゼミナール

## (2014年度 前期 第8回)のご案内

### 低温高压型変成岩類を用いた沈み込み帯の 深部流体の実態解明

平島 崇男

京都大学 大学院 理学研究科 地質学鉱物学教室

2003年に21世紀COEが開始されて以降、沈み込み帯における地震発生場の実態と地震やマグマの発生を誘発する深部流体 (Geofluid)の実態を解明するために、熱学施設の大沢研究室等と共に、過去の沈み込み帯で形成された青色片岩やエクロジャイトなどの低温高压型変成岩類を用いて(1)ローソン石青色片岩の弾性波その場測定(Fujimoto et al., 2010), (2) 深部流体が解放される深度・脱水量の推定、並びにその反応の確定(Matsumoto & Hirajima, 2007; Orozbaev et al., 2013; in submitted; Tsuchiya and Hirajima, 2013), (3) 深部流体の主要・微量成分の組成や状態(Yoshida et al., 2011; 2013; in submitted; Yoshida and Hirajima, 2012), などの情報を基に、流体の移動経路や循環スケールを推定するための研究を展開してきました。ゼミナールでは上記の成果の概略と、今後の課題などを紹介します。

6月4日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 303号室